

基本的方向(庁内案)

基本的方向・・・8つのまちを実現を見据え、基本構想期間12年間のうち、4年ごとに重点的に取り組み実現するもの。基本目標と目標値で構成。

基本的方向			
基本目標		目標値	
1	若者が帰ってこられる産業をつくる	学卒者の地域内回帰・定着率	数値目標検討中
2	飯田市への人の流れをつくる	休日滞在人口率	数値目標検討中
3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	合計特殊出生率	数値目標検討中
4	豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	温室効果ガス削減量	数値目標検討中
5	「市民総健康」と「生涯現役」をかなえる	心身ともに健康であると感じている市民の割合	数値目標検討中
6	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	近隣で支え合いができていない市民の割合	数値目標検討中
7	地育力がささえる学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む	ふるさとに愛着を感じている高校生の割合	数値目標検討中
8	災害に備え、社会基盤の強化し、防災意識を高める	災害に備えている市民の割合	数値目標検討中
9	個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する	市民活動・地域活動に参加している市民の割合	数値目標検討中
10	自然と歴史を守り活かし伝え、新たな文化をつくりだす	地域(飯田の自然・歴史・文化・風土など)を誇りに思っている市民の割合	数値目標検討中
11	地域資源を有効に活用して地域産業を守り、その価値を高めるとともに、地域経済を循環させる	検討中	数値目標検討中

8つの目指すまちの姿

リニア時代に
大切にしたい
視点

暮らし

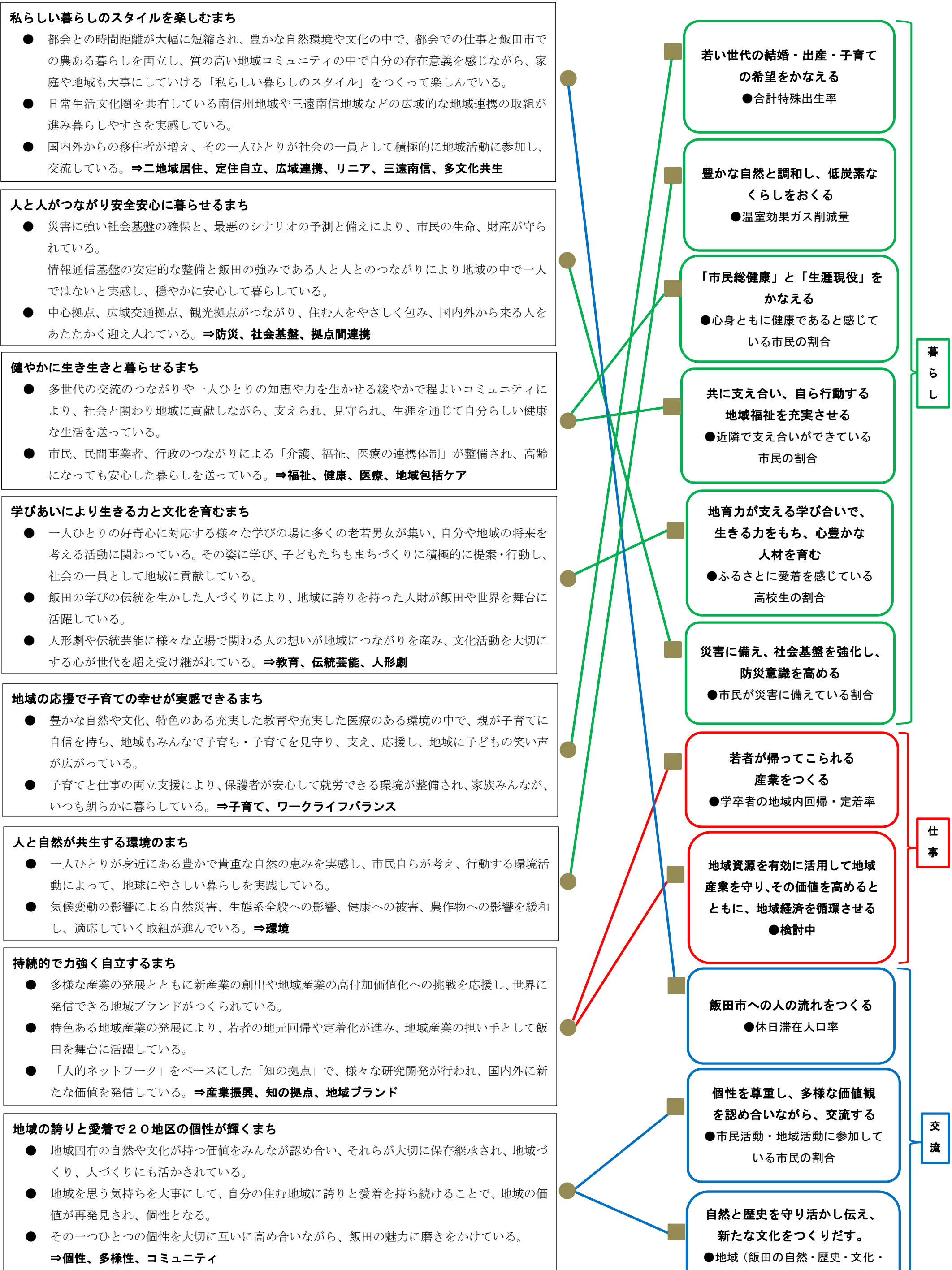
仕事

交流

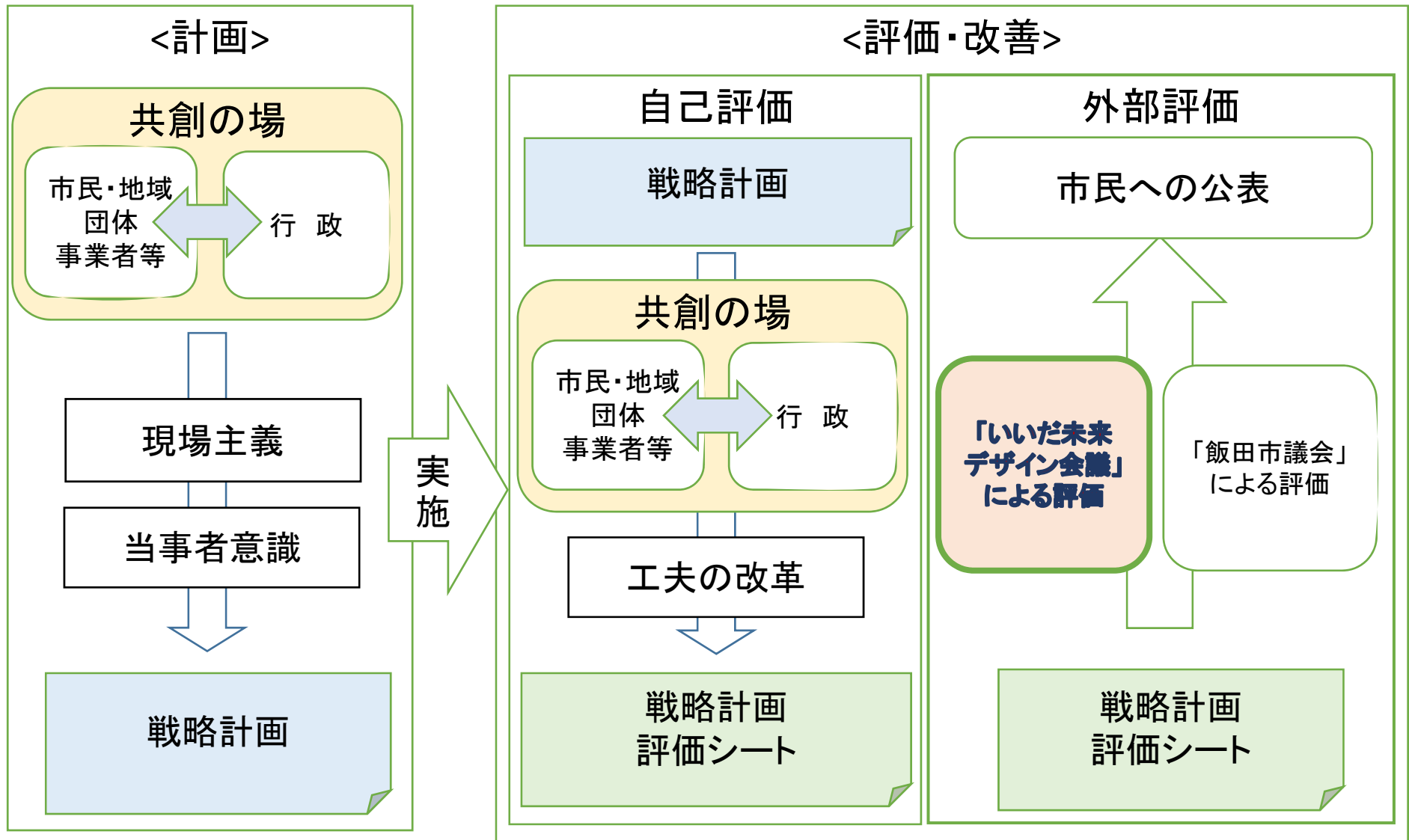
※基本目標・・・4年間で実現しようとする目標

※目標値・・・目標が達成された時の地域や暮らしの姿を
見える化し、達成状況を評価するもの

「目指すまちの姿」と基本的方向の関係性

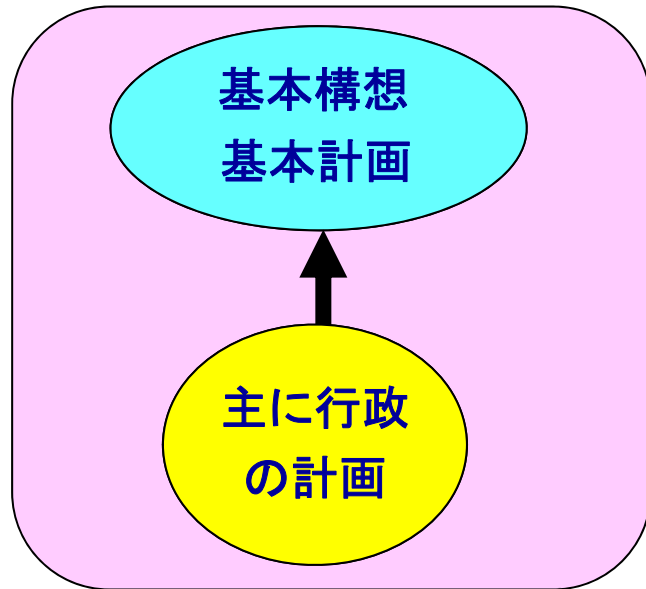


「戦略計画」を軸とした進行管理

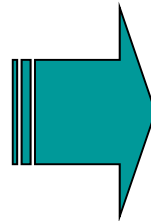


「当事者意識」と「共創」によるまちづくり

＜今までの基本構想基本計画＞



これまでの基本構想・基本計画は、主に行政(市役所)を中心に行うまちづくりの計画という意味合いが強いものでした。



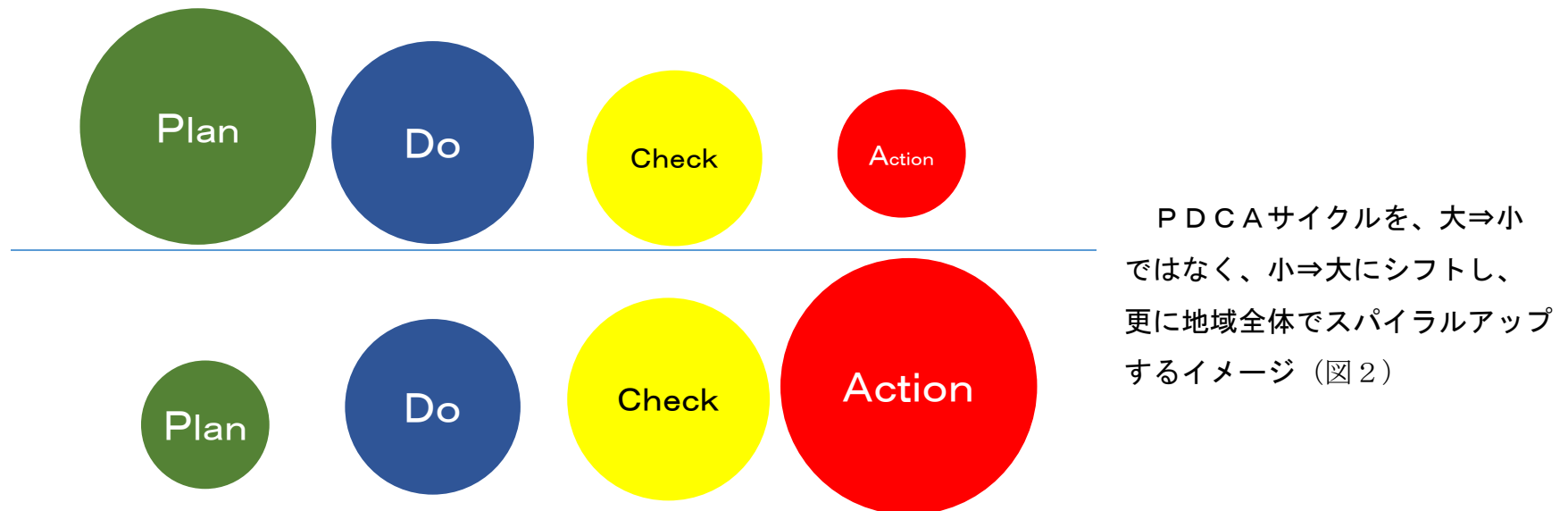
いいだ未来デザイン2028は、行政だけではなく、地域の皆さん一人ひとりの知恵と力を結集させて、「飯田の未来づくり」にみんなでチャレンジしていくための計画(行動指針)として策定します。

(1) 現場や地域の底力を持ち上げる視点

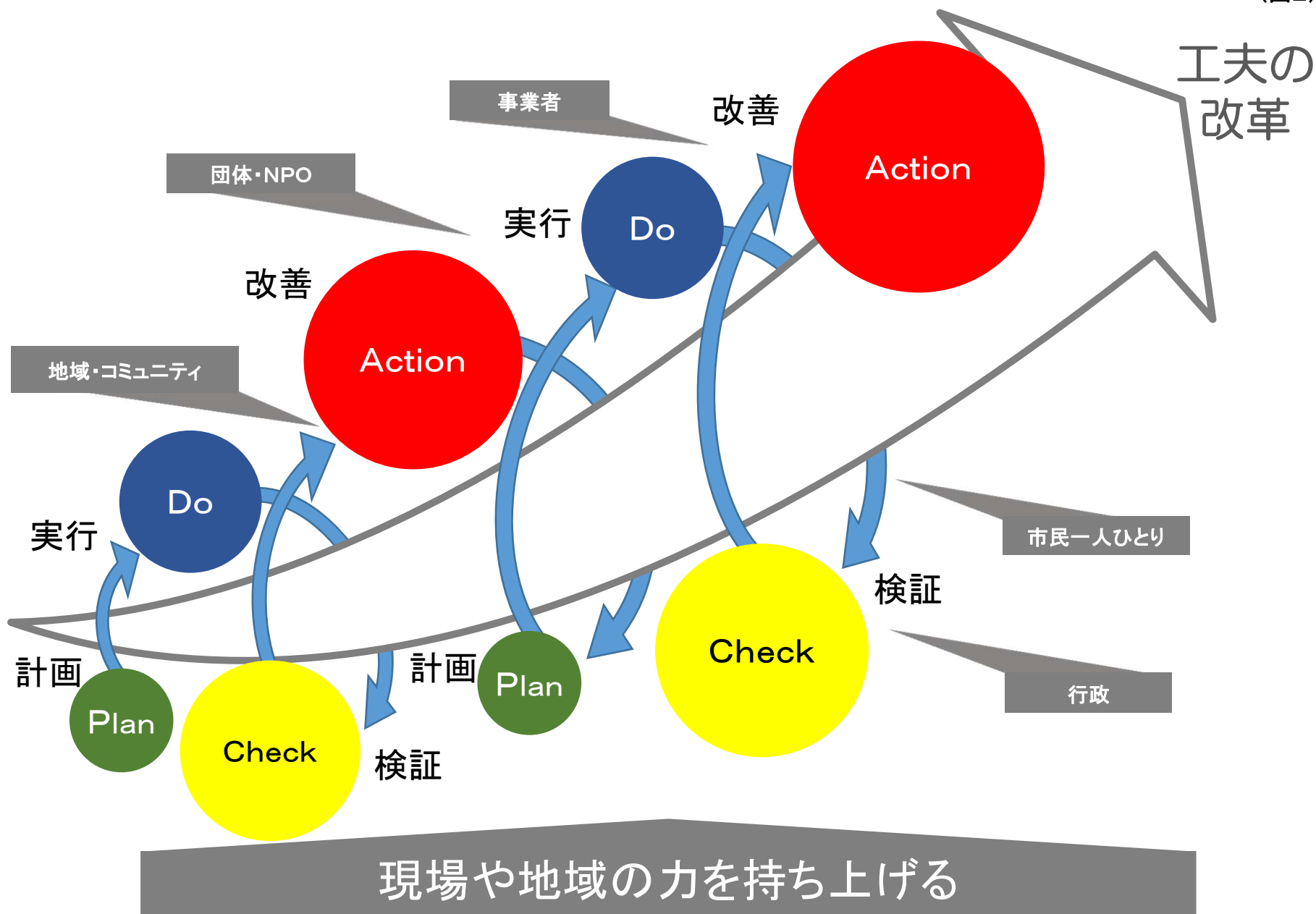
未来ビジョンの実現に向けて取り組む飯田のまちづくりの姿勢は、多様な主体の活躍で未来を共につくる姿です。

行政は、多様な主体との連携を密にする現場の感覚でないとわからないことが多くあるため、現場主義を徹底し、多様な主体の現状をくみ取り、ひとつのエネルギーに集約できれば、地域の底力を持ち上げることが可能となり、現場発の「工夫の改革」により地域全体が継続的に向上することができると考えます。

だからこそ、協働でのプロジェクト（戦略づくり）を行う共創の場（プロセス）を重視します。



(図2)



(2) 世界に届く価値をみんなで作る視点

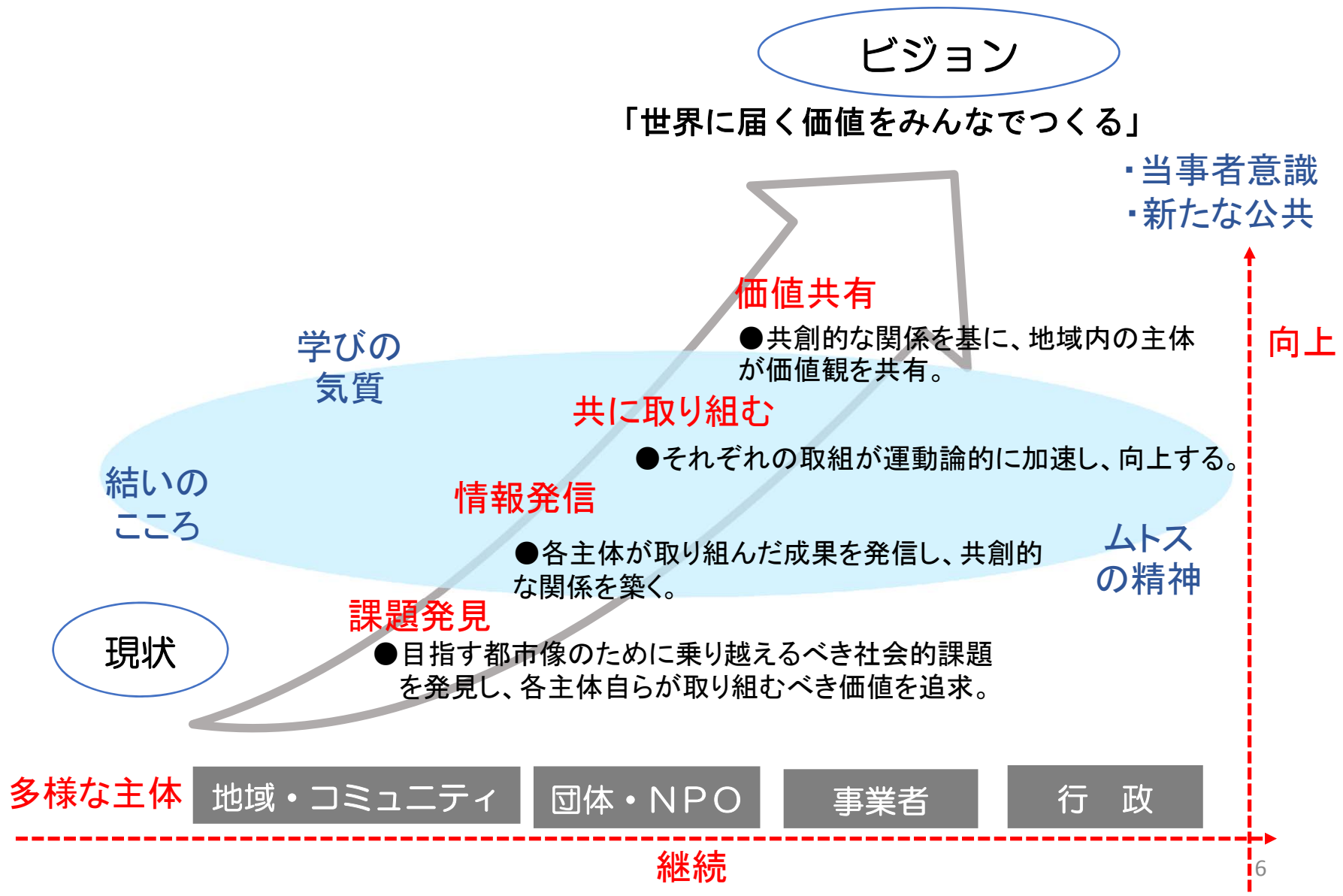
「いいだ未来デザイン2028」原案は、「当事者意識」を持ち、それぞれの立場で「飯田の未来づくり」にチャレンジするためのビジョンと位置づけて策定作業を進めてきました。

「リニアがもたらす大交流時代に、多様性が輝き、世界に届く価値をみんなで作る」の目標のためには、各主体が乗り越えるべき課題を自ら発見し、それぞれ取り組むべき役割を追求すること、そして各主体が取り組んだ成果を発信し、共創的な関係を築くことにより、地域内外の主体が価値観を共有し、運動を加速させながら「新たな公共」など社会的な価値となるものが創られることが理想です。そのことが「当事者意識」の醸成にもつながります。

(図3)。

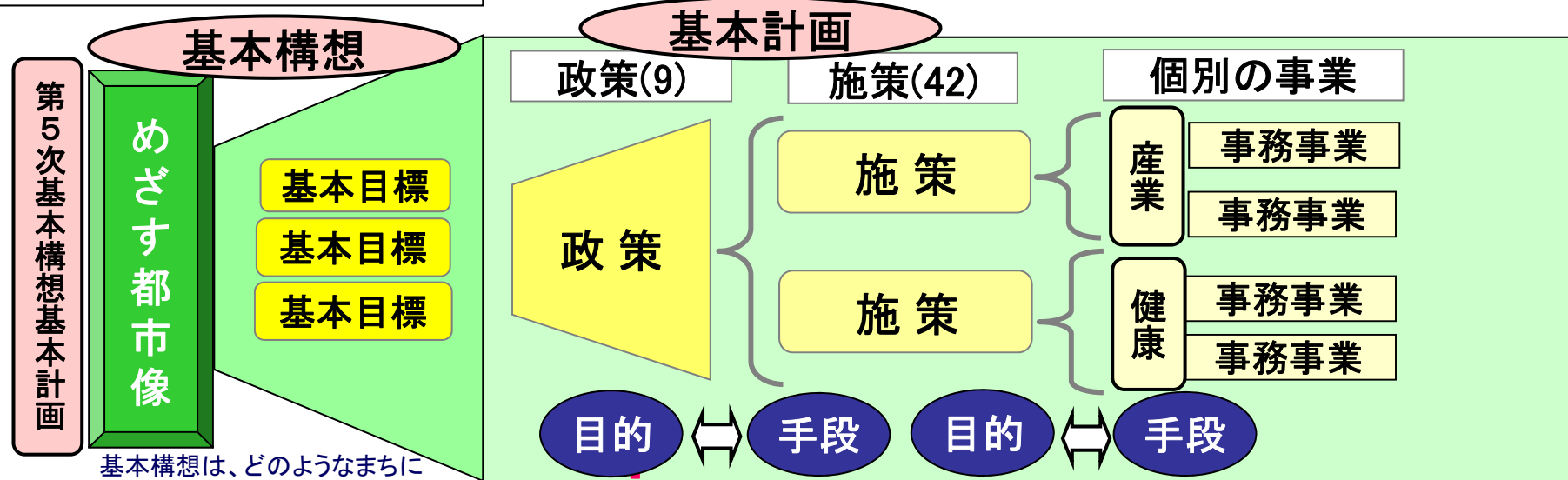
(図3)

「当事者意識」で取り組み、「新たな価値」を創るイメージ



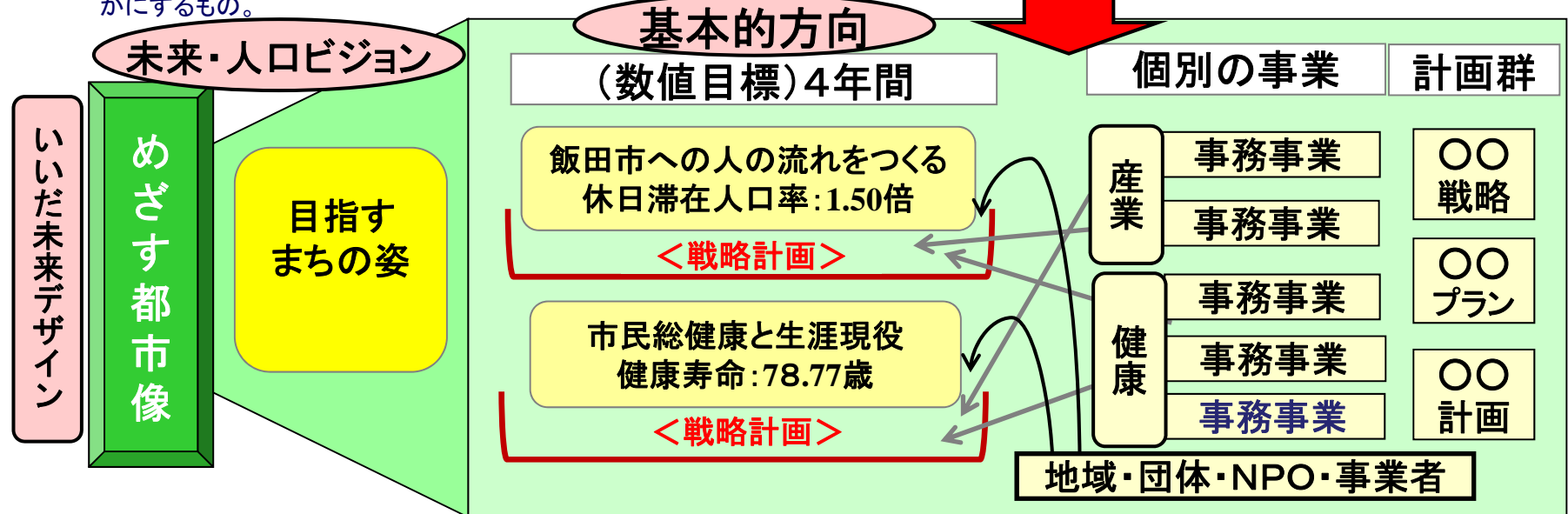
第5次計画との体系図比較

「戦略計画」による効果的な事業の立案



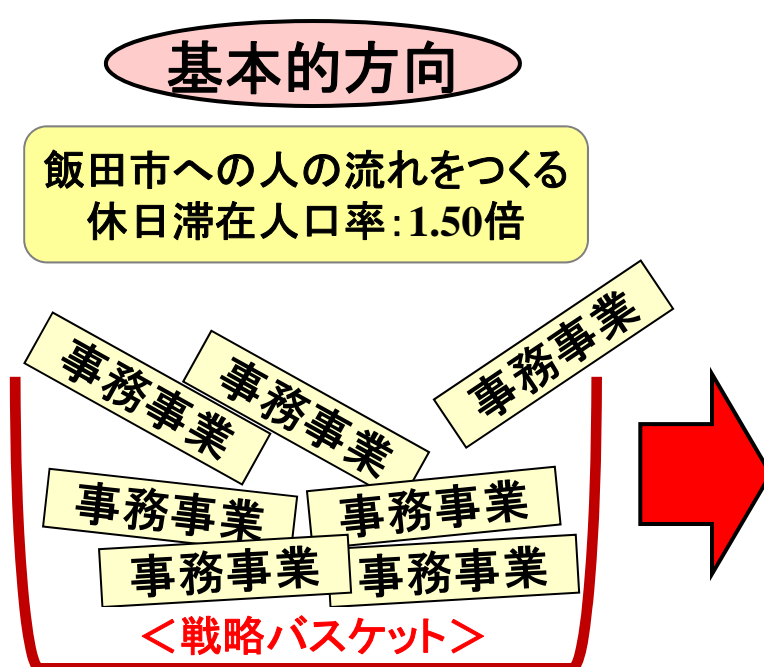
基本構想は、どのようなまちにするのか(目指す状態)を明らかにするもの。

基本計画は、目指す状態を実現するために全ての事務事業を体系的に位置付けた



- ・目指す姿の実現に向けて重点的に取組む事業で戦略計画を構成する。
(全ての事業が位置付けられるわけではない)
- ・戦略計画とは別に必要な個別計画を策定する。
- ・戦略計画と個別計画の進行管理をなるべくシンプルにできるよう工夫する。

戦略計画 ……8つのまちの実現を見据え、基本的方向の実現に向けて、単年度の有効策を組み立てたものであり、見える化したもの。ビジョン、基本的方向に照らして毎年見直しを行う。



・政策的事業をバスケットに投げ込む。

戦略計画 A

基本的方向 : 飯田市への人の流れをつくる
目標値 : 休日滞在人口率:1.50倍

- ◆ 戦略:A-1 目標値:〇〇%
取組内容:……………
事務事業名:〇〇事業、〇〇事業、…
- ◆ 戦略A-2 目標値〇〇人
取組内容:……………
事務事業名:〇〇事業、〇〇事業、…
- ◆ 戦略A-3 目標値〇〇円
取組内容:……………
事務事業名:〇〇事業、〇〇事業、…

「いいだ未来デザイン2028」の構造

基本構想
(未来ビジョン・人口ビジョン)

基本的方向

計画群

目指すまちの姿・ビジョン

8つのまちの姿



【例示】子育ての幸せ実感



人口

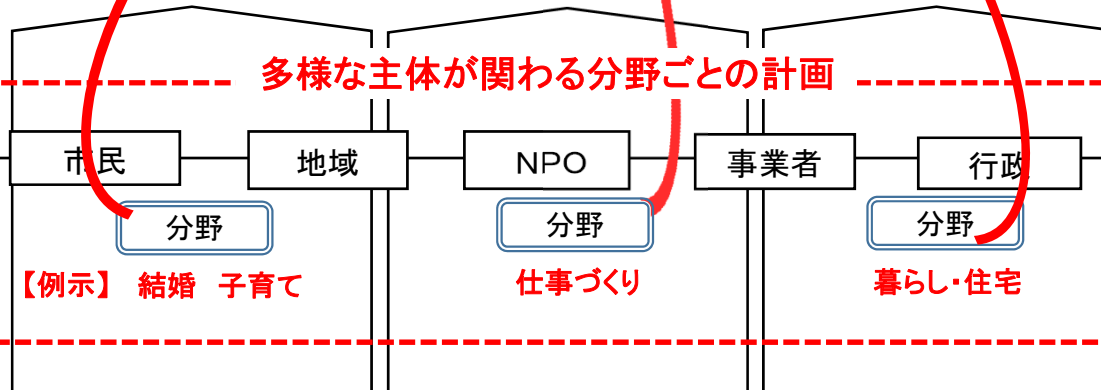
目標値群

【例示】出生率1.8



基本目標 ⇒ 戦略計画

多様な主体が関わる分野ごとの計画



【例示】結婚 子育て

仕事づくり

暮らし・住宅

飯田ならでき、飯田だからできる
みんなで作りたい
12年後の「暮らしの姿」「まちの姿」

人口規模を展望

人口
12年後の人口展望

基本的方向
(4年×3期)

戦略計画
単年度

分野を越え
共創的な関係

飯田の歩み 飯田市は、これまで大火や三六災害からの復興、周辺町村との合併、社会経済情勢の変化等を経験する中で、もう一步前へ踏み出す努力を重ね、地域の課題を解決してきました。その際、一貫して歴史・風土からなる多様性を尊重しつつ、学びの気質、共感による「結い」の心に根ざした地域づくりがありました。

飯田を取り巻く30年先の状況 世界人口は、アジア地域を中心に継続的に増加し、2050年には約90億人に達します。2030年には中国の人口がピークに達し、その後、インドの人口が増大することで、中間所得層の圧倒的な購買力が増大し、食糧・水・エネルギー問題が慢性化すると予想されます。また、人口構成における生産年齢人口の減少とともに、人財獲得競争の激化が進む見込みです。

国内では、人口減少、少子化、高齢化が進む中で、公共施設等のインフラの老朽化、気候変動がもたらす影響への対策の必要性が顕著となります。一方で、リニア中央新幹線開通により形成される6,000万人の経済圏域（スーパーメガリージョン）が、社会に大きな変化をもたらすと言われています。

飯田市にあっては、混沌として流動的な変化の激しい大交流時代に、ヒト・モノ・カネの資源を活かした戦略的な取組が求められます。

世代の価値観 2028年には、新たな価値観を持った若い世代が、働き盛りで、子育てをする年齢に達し、その後の社会の中心的役割を担うことになります。この世代の価値観が、暮らし方、生き方の変化に大きく影響すると考えられ、価値観の変化を踏まえた地域づくりが求められます。

市民憲章、自治基本条例、環境文化都市宣言等（30年先の飯田の未来を考えると、大切にすること）

キャッチフレーズ、都市像（今後、未来デザイン会議で検討）

目指すまちの姿 ~リニアがもたらす大交流時代に、多様性が輝き、世界に届く価値をみんなでつくる~

これまで飯田が培ってきた文化によって、飯田ならではの、飯田だからできる、みんなでつくりたい「暮らしの姿」「まちの姿」を8つの姿として描きました。これから訪れる変化の激しい時代にあっても、多様な価値観を認め、みんなで新たな価値をつくる魅力ある暮らしが実現されれば、世界に届く特別な価値となります。

人々が暮らしたい、訪れたいと選ばれるまちは、誰もが生き生きと輝き、魅力にあふれています。

これまで飯田は、地域に根付く多様性の中で育まれた価値を発展させ、全国或いは世界にまで通じる文化にしてきました。飯田に生きる私たちが当たり前と感じる暮らしは、移りゆく時代の変化を自らの力にして培った個性的な文化に彩られ、魅力ある暮らしの姿を表しています。これから飯田が迎えるリニア中央新幹線の開通、グローバル化の流れや、世代の価値観の変化の影響を受けてもなお、この飯田の姿を持続するためには、益々、飯田が培ってきた文化を発展させることが大切になります。

だからこそ私たち飯田市民は、みんなの暮らし、仕事、交流など様々な場面で、多様な価値をつくり、またその姿を応援します。多様な価値をみんなでつくり、それぞれの価値を認め合う文化があってこそ、暮らす人も訪れる人も、誰もが共感し、自己実現の喜びを実感できる魅力あふれるまちの姿となります。

そして「飯田ならではの、飯田だからできる」というまちの姿の実現は、時代の流れとともに光を放ち、全国更には世界に届く「可能性」や「勇気」となります。

学びあいにより生きる力と文化を育むまち

一人ひとりの好奇心に対応する様々な学びの場に多くの老若男女が集い、自分や地域の将来を考える活動に関わっている。その姿に学び、子どもたちもまちづくりに積極的に提案・行動し、社会の一員として地域に貢献している。飯田の学びの伝統を生かした人づくりにより、地域に誇りを持った人財が飯田や世界を舞台に活躍している。人形劇や伝統芸能に様々な立場で関わる人の想いが地域につながり、文化活動を大切に心が世代を超え受け継がれている。

私らしい暮らしのスタイルを楽しむまち

都会との時間距離が大幅に短縮され、豊かな自然環境や文化の中で、都会での仕事と飯田市での豊かな暮らしを両立し、質の高い地域コミュニティの中で自分の存在意義を感じながら、家庭や地域も大事にしていける「私らしい暮らしのスタイル」をつくって楽しんでいる。日常生活文化圏を共有している南信州地域や三遠南信地域などの広域的な地域連携の取組が進み暮らしやすさを実感している。国内外からの移住者が増え、その一人ひとりが社会の一員として積極的に地域活動に参加し、交流している。

地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち

豊かな自然や文化、特色のある充実した教育や充実した医療のある環境の中で、親が子育てに自信を持ち、地域もみんなで子育て・子育てを見守り、支え、応援し、地域に子どもの笑い声が広がっている。子育てと仕事の両立支援により、保護者が安心して就労できる環境が整備され、家族みんなが、いつも明るかに暮らしている。

人と人がつながり、安全安心に暮らせるまち

災害に強い社会基盤の確保と、最悪のシナリオの予測と備えにより、市民の生命、財産が守られている。情報通信基盤の安定的な整備と飯田の強みである人と人とのつながりにより地域の中で一人ではないと実感し、穏やかに安心して暮らしている。中心拠点、広域交通拠点、観光拠点がつながり、住む人をやさしく包み、国内外から来る人をあたたかく迎え入れている。



健やかに生き生きと暮らせるまち

多世代の交流のつながりや一人ひとりの知恵や力を生かせる緩やかで程よいコミュニティにより、社会と関わり地域に貢献しながら、支えられ、見守られ、生涯を通じて自分らしい健康な生活を送っている。市民、民間事業者、行政のつながりによる「介護、福祉、医療の連携体制」が整備され、高齢になっても安心した暮らしを送っている。

人と自然が共生する環境のまち

一人ひとりが身近にある豊かで貴重な自然の恵みを実感し、市民自らが考え、行動する環境活動によって、地球にやさしい暮らしを実践している。気候変動の影響による自然災害、生態系全般への影響、健康への被害、農作物への影響を緩和し、適応していく取組が進んでいる。

地域の誇りと愛着で20地区の個性が輝くまち

地域固有の自然や文化が持つ価値をみんなが認め合い、それらが大切に保存継承され、地域づくり、人づくりにも活かされている。地域を思う気持ちを大事にして、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち続けることで、地域の価値が再発見され、個性となる。その一つひとつの個性を大切に互いに高め合いながら、飯田の魅力に磨きをかけている。

持続的で力強く自立するまち

多様な産業の発展とともに新産業の創出や地域産業の高付加価値化への挑戦を応援し、世界に発信できる地域ブランドがつけられている。特色ある地域産業の発展により、若者の地元回帰や定着化が進み、地域産業の担い手として飯田を舞台に活躍している。「人的ネットワーク」をベースにした「知の拠点」で、様々な研究開発が行われ、国内外に新たな価値を発信している。

飯田のまちづくりの姿勢 ~飯田が持つ可能性を信じて、多様な主体が行動する姿勢~

私たち飯田市民は、学びによる物事の本質を理解する気質を持ち合わせ、時代の動きの節目に変化を取り入れて独自の文化を紡ぎ、多様で寛容な質の高いコミュニティを形成してきました。昭和22年の飯田大火後の復興の際には、地元中学生の自発的な取組により、りんご並木がつくられ、その精神は人形劇のまちづくりなど様々なムトス活動に広がっています。産業面では、元結に改良を加え、光沢のある丈夫な製品を作り出す水引産業に始まり、食品産業、近年では市田柿の高付加価値化や航空宇宙プロジェクトなど地域経済活性化プログラムによる多様な産業政策を展開しています。また子育て支援や健康づくりなど協働による暮らしやすい地域づくりが進み、さらに地域環境権による分権型エネルギー自治の取組は、先進事例として全国的な注目を集めています。これら飯田の特徴的な取組は、ムトスの精神に基づくものであり、飯田が持つ可能性です。この精神をリニア時代を担う若者たちに引き継ぎ、多様な主体の行動姿勢によって「目指すまちの姿」の実現を目指していきます。

変化の激しい時代を生き抜く力の源泉 「学び」

変化のスピードが加速することから、変化に対応する行動が求められます。飯田のまちづくりの姿勢は、学ぶことにあります。物事の本質を理解し、新風を取り入れて創意工夫することにより経験を積み重ね、応用する力を身につけます。私たちは、変化の激しい環境にあるからこそ、飯田で培われた学びの土壌で一人ひとりの「個」の力を蓄えることによって、地域全体で次代を生き抜いていきます。

グローバル時代に魅力を放つ価値の創造 「交流」

国際化、世代の価値観の変化が進む中では、個性を磨き、存在感を示すことが必要となります。飯田のまちづくりの姿勢は、交流することにあります。広く交流しながら、内と外の地域を結び、相互を理解し、融合することにより、新たな価値をつくり出します。私たちは、大交流時代にあるからこそ、積極的な交流から生み出される飯田の強みや新たな価値を磁石として、世界に届く存在感を示します。

新たな課題を解決し時代を切り拓く「共感」

本格的な人口減少の時代となることから、これから発生する経験のない課題を解決する必要があります。飯田のまちづくりの姿勢は、共感することにあります。自分たちの地域は自分たちでつくる自主自立の精神「ムトス」や、当事者意識を持って協力し合う「結い」の心で考え、新たな公共（1）をつくり出します。私たちは、右肩下がり時代にあるからこそ、自助・共助・公助を重層的に組み合わせ、地域の価値観を認め、支え合い、共感しながら、実りある未来づくりに挑戦します。

- 1 人口減少、少子化、高齢化の中で、必要とされる、地域で見守る子育てや介護、助け合いによる防災力の向上など、公共性の高いサービスを皆が協力し合って実現していくこと。

飯田市人口ビジョンでは、定住人口と滞在人口の2つの面から人口を捉えています。定住人口は、地方都市における全国的な人口減少傾向の中で、子育ての希望をかなえるための環境づくりや、若者が帰ってこられる産業づくりの取組などにより、人口減少を最小限に抑えることを基本的な考えとしています。一方、滞在人口は、定住人口に、観光、ビジネス、通学、買い物などで飯田市を訪れる人を加えた人数です。「人口流動化時代」に、飯田の魅力効果的に発信する取組を推進し、地域外から人を惹きつけ、30年後には定住人口を含め、約18万人の人が行き交う都市を展望しています。

【人口展望】 定住人口（2028年）96,000人（2045年）91,000人 滞在人口（2028年）156,000人（2045年）182,000人

基本的方向は、目指すまちの姿を実現するための戦略であり、道筋となるものです。地域経済の活性化や環境への取組など多くの先進的に取組んできたものを活かしながら、来年度（平成28年度）に市民、地域や事業者の皆さん、行政が具体的に検討していきます。

市民

地域

NPO

事業者

行政